

第1回淀川の魅力ある景観づくりに向けた検討会 議事録（概要）

開催日時：平成30年8月2日(木) 14:00~16:45

出席委員：藤本委員、加我委員、石田委員、上須委員代理、久ノ坪委員、一本松委員

オブザーバー：淀川河川公園管理センター、大阪府、大阪市、枚方市、高槻市、寝屋川市、摂津市、
守口市、島本町、京都府、京都市、八幡市、大山崎町

事務局：大阪府住宅まちづくり部都市空間創造室

■概要

【検討会設置の趣旨、検討の進め方について】

- 本検討会と淀川沿川まちづくりプラットフォームの相互のやりとりの中で、関係者が合意できることが重要。
- 大阪湾から三栖閘門までを舟運でつなぐのが当面の目標。舟運などの人の動き、生物の環境などを淀川の景観として位置づけていくことが大事。
- 遊びの軸、楽しむ軸、仕事の軸、昼か夜か、季節をいつにするか、どういう視点で捉えていくか、最初から固定せず色々な観点でどこが面白いかを考えていくことも必要。
- 舟運は、景観を生かした媒体であり、掘り起こされたものが魅力的であればあるほど、バリエーションがあればあるほど事業性の可能性が出てくる。
- 淀川の治水性があった上で、景観形成を盛り込んだほうが一般の人になじみやすい。淀川のおかげでみんな守られていることが最初にあった方が、興味を引く気がする。

【話題提供：淀川と景観まちづくりについて】

《藤本教授より話題提供》

[話題提供後の意見]

- これから淀川の景観の魅力を考えていくとき、1つは個性、それから仕掛け、あとはシンボル性。そこだからこそということを意識しながら手を加えると今でも魅力的なところがさらに磨きがかかる。
- 北浜テラスにしても、道頓堀にしてもそれぞれ個性がちがう。淀川には淀川の個性があり、川幅とか、護岸の有りようとか、他とは全然違う。そのあたりをしっかりと活かすことを考えた景観整備が求められる。
- 他にないというものをいかに淀川で見つけ出すか、そして今あるものを潰すことなく継承していく必要がある。淀川は多くの歴史を持っている川であり、目に見える形で見られるスポットを育てられたらいい。
- 「水の路」を長期計画にもあげていて、淀川の活性化は悲願でもある。集客性をあげるには、琵琶湖テラスのように何かものをつくるというのが1つあると思う。
- 航路の事業開拓で重要視しているのは、一般の方がその体験に何を期待できるか。こんな景観があるといっても苦しい。坂本龍馬になれる、勝海舟になれるといった世界観まで落とし込んだストーリーづくりをした上で、歴史欲求、学ぶ欲求を満たせるコンテンツをつくると、日本の方には需要を想起できるのでは。
- 外国の方にどこまで遡及できるかという点、和をもっと強調しないといけない。私たちには当たり前でも外国の方には日本なんだというものを歴史背景も含め突出して出していくと、10年後、20年後に外国人の行きたいところになるのではないかな。

【基本目標について】

- 「都市軸」には違和感がある。淀川はほとんどが自然の空間である。
- 淀川の豊かな自然環境が最初、次に淀川の歴史と文化がベースでないか。その上に川とまちがつながることを組み込んでいくということだと思う。「自然>歴史・文化>まちづくり」の順番。
- 都市を支えてきた川を継承することには意味があるが、多くの人を惹きつける必要はあるのか。母なる大河川ではないか。
- 流域全体で淀川本川の地域づくり、流域づくりを考えていく視点を持たないといけない。
- 淀川流域でも何を売りにするかというと淀川本来の自然環境をベースにした、そこにある人の暮らし・歴史が一番。
- 先日の豪雨災害でも、流域全体で淀川本川、大阪を守っている。
- 淀川の地形、自然環境をベースに考えていくと「淀川らしさ」がでてくるのではないか。
- 景観は、人が居て見て楽しむもの。日常的に河川に近いところで何かできる場所づくりが重要。人が楽しめるデザインが重要。
- 行政の立場からすると、基本目標にまちづくりは外せないものではないか。

【景観資源の発掘方法について】

- コンテストの選定方法、選考委員は、主催、共催、後援の3者と学識委員のご意見もお聞きしながら選考したいと考えている。
- コンテストの選考方法が目新しさを競うものになっているが、広く集めるためには、一般の方がいいと思ったものを気軽に応募してもらおう方がいいのかもしれない。

【景観資源の整理の方向性について】

- 景観資源（ワンド、水面、護岸、山並みなど）が組み合わせあって景観となっている。いきなり組み合わせから整理は難しいが、景観資源の何が図になって、何が地になるのか整理することも重要。
- 河川公園の捉え方として、公園＝芝生と思われているのではないか。河川公園は自然から、レクリエーションまで数々の顔を持っており、分類の際には注意が必要。
- あまり近景、中景、遠景、大景観と言わず、ボヤっとつながりながらものをプロットしていく方が良い。
- 平面の地図で、関係性を見ながら考えることが重要。点とつながりと広がりがあり、その辺を意識しながら進めたほうがいい。
- 季節感、時間帯など時間軸の整理もすると面白い。

【検討内容の情報発信について】

- 淀川へのアクセスがわからない場合が多い。駅から淀川に行くための導線には面白い景観があり、ここからアクセスできるといった情報発信も考えられる。
- 橋梁を自転車で渡れるのかどうか、料金等もわからない。
- 日常的に川をいつ意識するかというと電車に乗っている時であり、鉄道事業者との連携もあると思う。
- 淀川への愛着をどう根付かせていくか。子供の総合学習等も重要。

【淀川における景観資源の活用事例について】

- ミュージック&マルシェは河川の利用として、こうしたコンサートという需要もあるということで紹介させて頂いた。
- アーバンキャンプは川の中で宿泊して頂いて、梅田の夜景を眺めながらグランピングをして過ごしていただく。
- これらの継続的な持続可能な利用を作っていければ、新たな景観の創造につながると考えている。
- アーバンキャンプは洪水でできなかったことがあると思うが、洪水が来た時にはすぐに逃げるということを体験できるいい機会。川の持っている怖さ、優雅さ、雄大さを感じながら楽しんで欲しい。

